

## 2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
221841085	臨地実習C(臨床) Clinical Nutrition Practicum	林明日香・田中優成			2	選択	4前期
<b>科目の概要</b>							
本実習は、DP2・3・4・5・6の教育理念に基づき4単位の履修が必要である。原則的にA(給食基礎)から1単位、B(公衆栄養・給食応用)から1単位、C(臨床)から2単位を修得する。内容は実習施設により異なり、それぞれの実習施設の教育計画に基づいて実施される。これまでに学んだ関連教科の知識・技術と社会人基礎力を基に、臨床栄養・公衆栄養・給食経営管理のそれぞれの実践の場で栄養管理業務を学習し、管理栄養士に必要な健康の維持増進、疾病の予防、疾病の治療・重症化予防において栄養管理及び栄養指導を行うことができる能力を身に付ける。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 授業では経験できない現場での業務を通し、臨地実習では“職業”を実践する学びの場とする。 ② 実際の業務の一端を担うことで、授業で得た知識と現場に立った時のイメージの違いを修正する。 ③ 現場の課題を捉え、解決策を自身の考えとしてまとめる機会とする。 ④ 授業で得た知識を最大限に使って現場の業務に活用し、現在の自分の課題を認識する。				① 授業では経験できない現場での業務を通し、臨地実習では“職業”を実践する学びの場とすることができる。 ② 実際の業務の一端を担うことで、授業で得た知識と現場に立った時のイメージの違いを修正できる。 ③ 現場の課題を捉え、解決策を自身の考えとしてまとめることができる。 ④ 授業で得た知識を最大限に使って現場の業務に活用し、現在の自分の課題を抽出する事が出来る。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	常に主体性を持ちながら行動し、チーム医療に貢献できる資質を見出すことができる。					
	働きかけ力	多職種協働を意識し、周囲の人に働きかけができる。					
	実行力	社会的マナーを守り、責任ある行動から、臨地実習の目的を実行できる。					
考え抜く力	課題発見力	現場の諸問題に対する課題発見から、専門的知識および技術の統合に繋げることができる。					
	計画力	計画的に課題を実践し、期日までに提出できる。					
	創造力	目的をもって臨地実習に臨み、目標とする管理栄養士像を創造することができる。					
チームで働く力	発信力	自分の意見を発信し、双方向の学修となる臨地実習を受けることができる。					
	傾聴力	傾聴力を使いながら、管理栄養士の役割について総合的に理解ができる。					
	柔軟性	自分の考えを柔軟にして、対応できる。					
	状況把握力	状況把握しながら、臨地実習に臨むことができる。					
	規律性	守秘義務の遵守や挨拶など社会的マナーである規律性が備わっている。					
	ストレスコントロール力	ストレスの状況においても、平常の力を発揮することができる。					
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：臨地・校外実習 加藤昌彦 續順子 塚原丘美 建帛社							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
「臨地実習C」は「栄養実習事前・事後演習」、「臨床栄養学」、「公衆栄養」、「給食経営管理論」他と関連付けさせながら発展させる 資格との関連：管理栄養士							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生管理が必須であるので、習慣的に衛生管理を実践し、規律を遵守する姿勢を身に付けること。</li> <li>健康を守るためにどのような人がどのような努力をしているのかを自分に置き換えて考えること。</li> <li>周囲の迷惑にならないよう、体調管理は常にベストの状態になるよう日頃から心掛けること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で必要な知識を得た上で、臨地実習A(給食基礎)、B(公衆栄養・給食応用)、C(臨床)に真摯な態度で臨み、理想的な管理栄養士像を創造し、将来を考える機会となるように取り組むこと。</li> <li>臨地実習中は自己都合による欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は認められない。実習施設の判断で処遇されるので注意すること。</li> </ul>			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	90	①		✓	臨地実習において、どのようなこと学び、何を得たかなど、取り組んだプロセスや結果について実習中の態度も含め評価する。 臨地実習目的を明らかにし、その内容に沿った実践力が身についたか、事後の振り返りなどを、実習ノート・事後報告書を見て総合的に評価する。  知識の獲得：0% 知識の活用：0% 知識の解決：100%
				②		✓	
③				✓			
④				✓			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
	③						
	④						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）常に主体性を持ち行動し、チーム医療の資質が身に付いている。 （実力力）社会的マナーを守り、臨地実習の目的を実行できる。 （課題発見力）現場における課題発見から、専門的知識および技術の統合に繋がられる。 （創造力）臨地実習を通じ、目標とする管理栄養士像を創造できる。 （発信力）自分の意見を発信し、双方向の学習となる臨地実習を受ける事ができる。 （傾聴力）傾聴力を使い、管理栄養士の役割について総合的に理解ができる。 （規律性）守秘義務の遵守や挨拶など社会的マナーなどの規律性が備わっている。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
実習前の情報収集や、予習課題、実習中課題など、実習に臨む態度や行動が模範的であり、実習中の評価が優レベルであること。また、実習先での課題発見や、自分の考えを適切にまとめることができ、その内容を他の学生に影響する発信ができればA（優）とする。さらに実習先の評価が秀レベルであり、他の学生に意義のある発信や影響力を与えることができればS（秀）とする。	実習先の情報収集や、事前課題の提出など、実習に臨む態度や行動は標準的に実行でき、実習中の評価が良レベルであること、また、実習先での課題発見や、自分の考えを発信でき、他の学生と共有することができれば、B（良）とする。十分ではないが、努力しようとする意欲が認められればC（可）とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-15	臨床栄養実習で以下のことを学ぶ ・実習施設の概要と特徴 ・栄養部門についての機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・栄養指導の実際 ・チームケアの実際	実習 ・実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。 オンライン実習の場合には実習先が指定したZOOMなどを使い行う。	・指示された準備を行い、予定に沿って実習を実施し、書式に沿って実習ノートを作成して提出できる。 ・実習で得た学習や振り返りなどを報告することができる。	(予習) 臨床実習に必要な専門知識を確認する。病院における栄養管理システムとチームケアにおける管理栄養士の役割について理解する。オリエンテーションや事前課題がある場合はその準備を行うことを推奨する。 (復習) 実習日程、学修内容、臨地実習で得たこと、反省などを実習ノートおよび実習報告書にまとめ、現在の自分に不足する力の振り返りを行うことを推奨する。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力